

西仙北スマートIC整備効果事例

令和6年12月

西仙北スマートインターチェンジ地区協議会

西仙北スマートIC ～観光の活性化～

- スマートIC開設後、アクセス性の向上によりイベントへの観光入込客数が増加
- イベント時には遠方からの利用者が多く、広域的な集客が促進され観光活性化に寄与



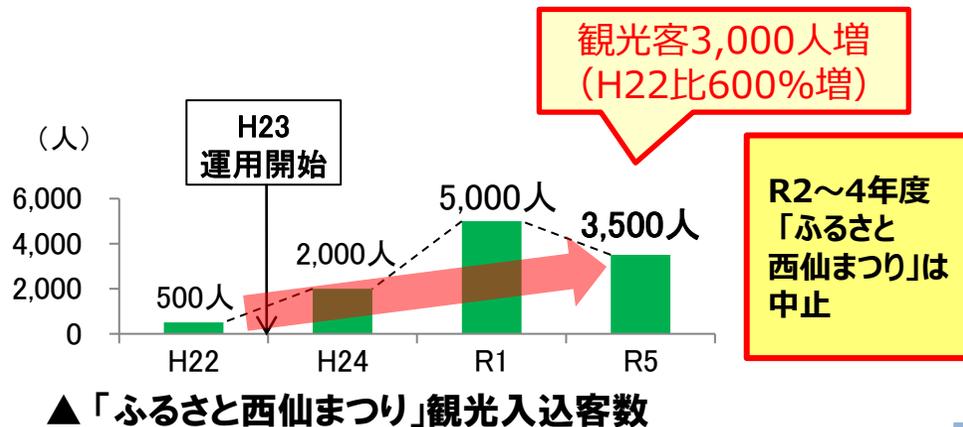
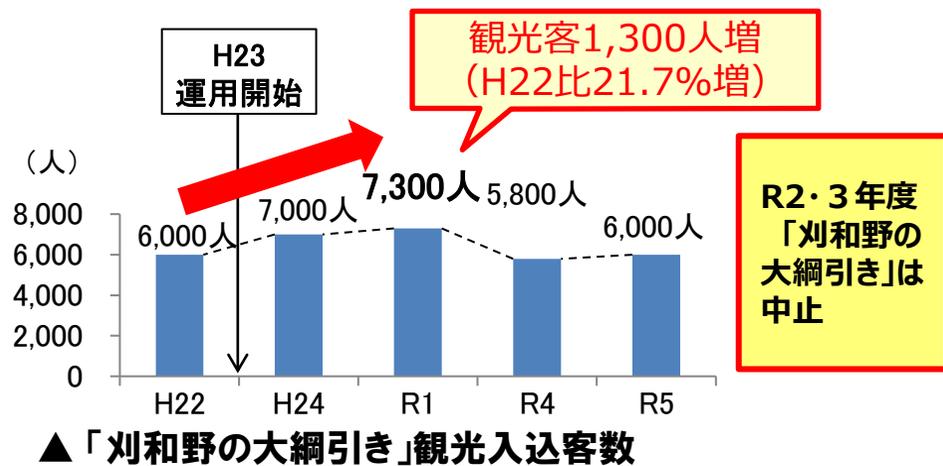
▲ 西仙北地域周辺の観光資源



刈和野の大綱引き



ふるさと西仙まつり



西仙北スマートIC ～農業の活性化～

- スマートIC周辺地域において農業法人数や直売所の売上げ等が増加、**農業が元気に**
- 今後販路拡大が見込まれ、西仙北スマートICの利用により**輸送効率化を支援**



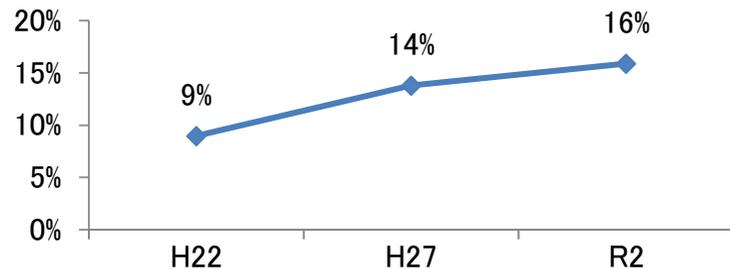
大仙市全域で複合経営への取り組みや規模拡大により農業法人数が増加しており、西仙北地域でも同様の傾向が見られる。
(H22:6法人→R4:20法人)
今後、生産量の増加に伴う販路拡大により、SICの利用増加が期待される。

【大綱の里】
地場産農産物のほか加工品販売を行う直売所「大綱の里」はR4.6.1にリニューアルオープンを行った。R5年度は前年度と比較すると売上、客数ともに約1.2倍の増加となった。
運営を受託しているマルシメ（株）によると、県外・市外からの利用者も増加しているとのことで、移動にSICが利用されているものと推察される。なお、R6.11には更なるリニューアルを予定しており、ますますの利用増加が期待される。

【秋田百笑村】
・グリーンツーリズムの受入れや産地直売など農業の楽しさを広める活動を行っている。西仙北SICを利用した遠方からの参加者も多く、直売の発送や首都圏での農産物販売の移動にSICが利用されている。

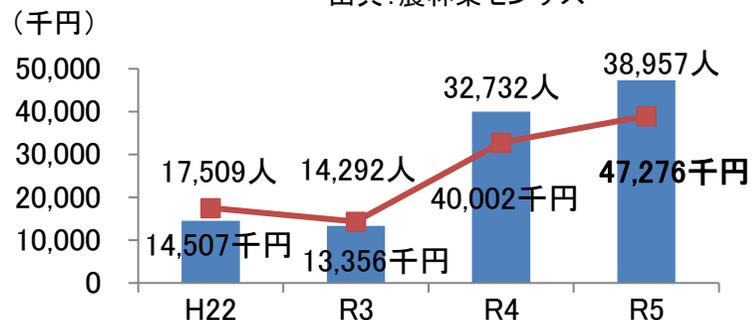


▲西仙北SIC周辺の農業法人と直売所



▲大仙市にある農業法人のうち西仙北地区の農業法人が占める割合

出典：農林業センサス



▲大綱の里客数、販売額の推移 出典：大仙市

- ・現在、直売の発送や首都圏での農産物販売への移動に利用しており、販路拡大に伴い、**利用頻度が増える**と考えている。**農業体験参加者の利用も多く**、SICで待ち合わせし案内する場合もある。
- ・各種大会やユメリアからの帰りに立ち寄りの方が多い。組合に参加する農家も増えてきており、**地域の農業が元気になってきた**と感じている。
- ・6次産業化を見据えた独自の販路確保が必要と考えており、高速交通網の利用が必要となる。**SICの利用により販売地域が広がる**ものとする。

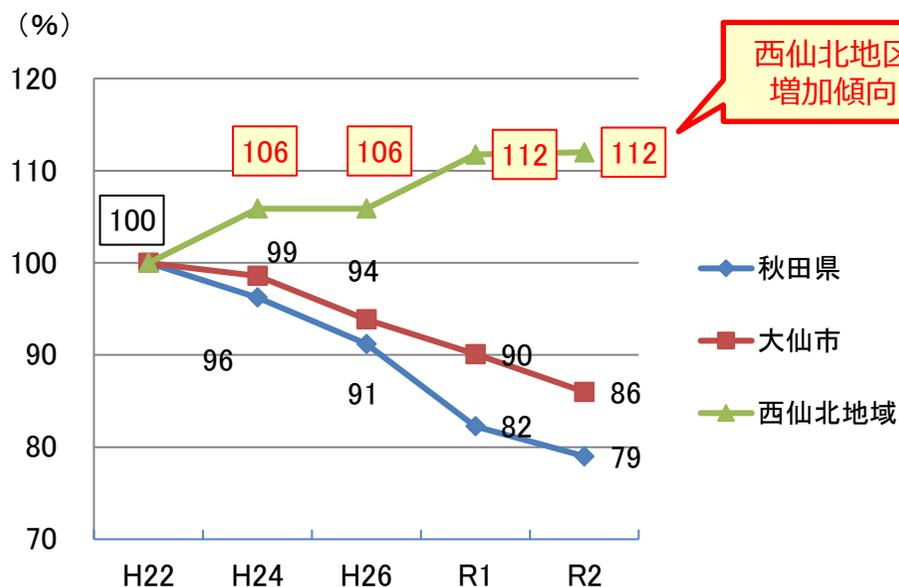
▲農業法人等からのヒアリング結果 出典：大仙市

西仙北スマートIC ～企業活動～

- 秋田県内、大仙市内の製造業事業所数、製造品出荷額は減少傾向
- スマートIC周辺地域の事業所は**運用開始後、増加傾向で企業活動に寄与**



▲西仙北スマートIC周辺における主要事業所



▲西仙北スマートIC周辺地域製造業の事業所数の変化

出典：工業統計調査

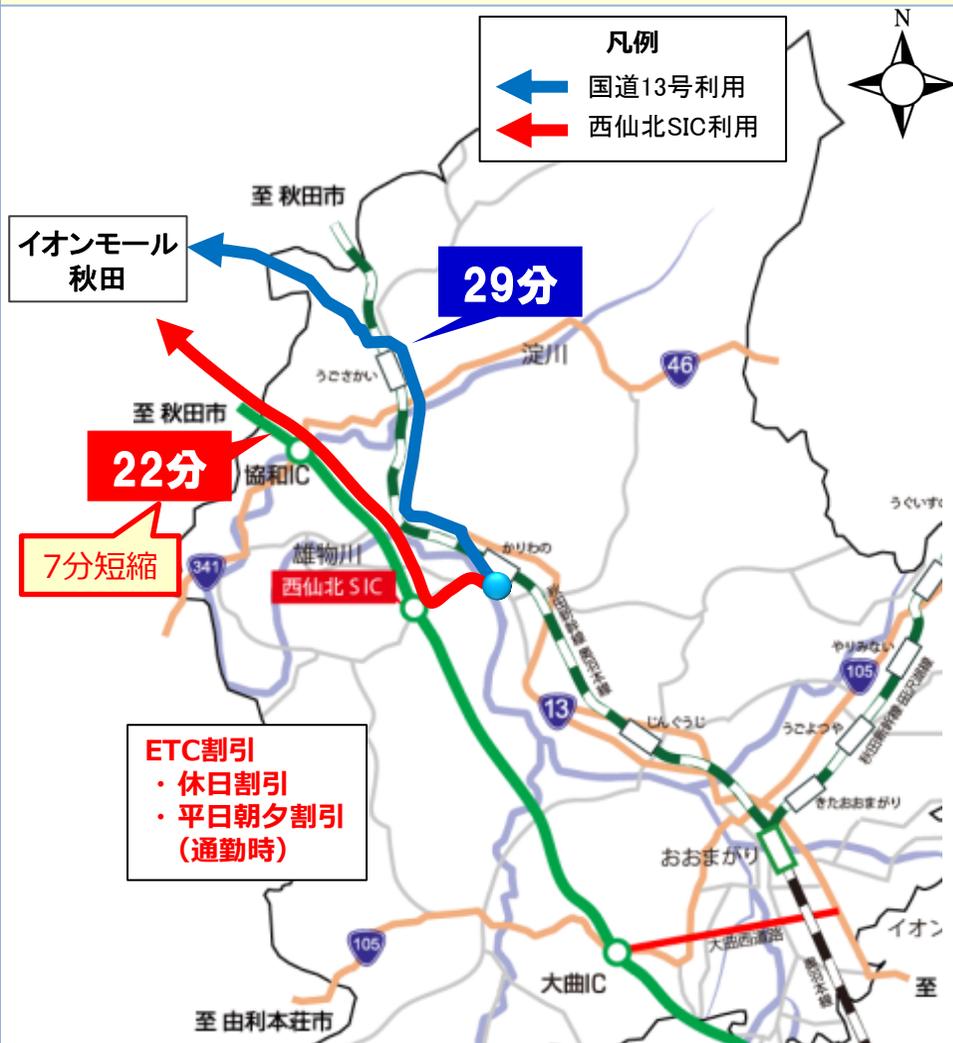
西仙北地区
増加傾向

- ・市外への営業では、西仙北スマートICを利用しており、**営業活動の効率化が受注拡大に繋がっている**。
西仙北スマートIC開通後は、秋田自動車道を利用し、**製造品の搬送も時間が読める**。
- ・西仙北スマートIC開通後、**お客様が来社する際は、スマートICからのルートを案内している**。

▲西仙北地域企業のヒアリング結果 出典：大仙市

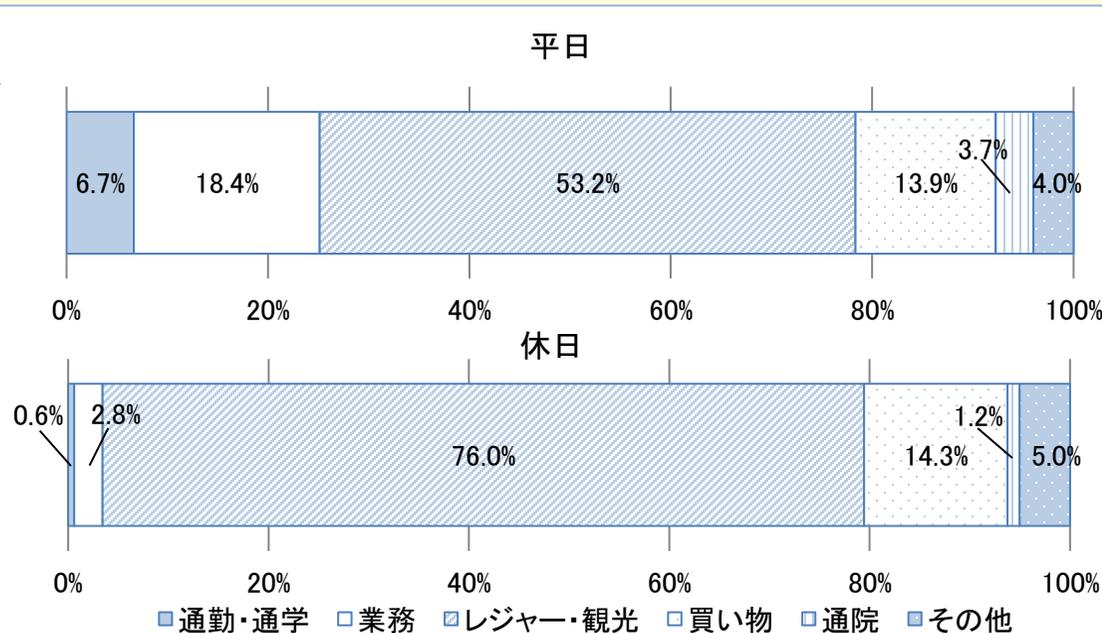
西仙北スマート I C ～生活利便性向上～

○西仙北スマートICの利用により、日常生活での移動時間が短縮でき、**買い物や通勤等の生活の利便性が向上**



▲ 西仙北支所からイオンモール秋田への移動時間の変化

出典:ETC2.0データ(R2.9～11月) 休日12時間(7～18時)平均



▲ 高速道路の主な利用目的 出典:H31年度実施 アンケート結果より

- ・通勤帰りの際、国道13号を利用するよりも時間短縮になるため、**子どもを迎える時間に間に合い、助かっている。**
- ・信号も無くスムーズに通行できるので、**帰宅時間が遅くなったときは利用することが多い。**
- ・朝、**通学の際に電車に乗り遅れた子どもを送っていくのに利用している。**冬場は電車が遅れることも多く、I Cを利用している。

▲ スマートIC利用者の声 出典:大仙市

西仙北スマート I C ～防災性、災害時対応力の向上～

○西仙北地区は洪水時の浸水域が広範囲に及び、国道等の主要道路が通行規制となった場合でもスマートICを利用し、迅速かつ円滑な復旧支援活動が可能。



▼雄物川の洪水発生状況(大仙市(西仙北地域))

年月	概要
昭和22	7月22日洪水。雄物川全川にわたり既往の最高水位を突破し、氾濫区域は流域平坦部の60%にもおよんだ。刈和野中心部では平均2～2.5mの水深となり、最大の被害箇所となった。
昭和54	8月6日洪水。県南部を中心に豪雨をもたらした。河川被害は破堤4ヶ所、護岸決壊延長6,270m。一般被害が著しい箇所は、下流狭さく部の影響により洪水が停滞する西仙北町付近であった。
昭和55	4月6日洪水。雄物川流域の山地には残雪があり、降雨は洪水の規模を大きくした。被害は昭和54年8月洪水と同様中流部に集中した。
昭和57	4月16日洪水。雄物川流域の山間部には残雪があり、降雨は融雪を促すひきがねとなった。被害は中流地区が多く、床下浸水2戸、水田の冠水617.5ha、道路破損39ヶ所となった。
昭和62	8月16～18日洪水。雄物川全域にわたり100mm以上の降雨となった。護岸決壊43ヶ所、漏水箇所4ヶ所。一般被害は中流部に集中した。
平成23	6月24日洪水。県南部を中心に200mm以上の降雨となった。被害は床上浸水24棟、床下浸水33棟となった。
平成29	7月22～23日洪水。22日正午からの24時間雨量が364mm以上となった。被害は中流部が多く、住家半壊12棟、床上浸水76棟、床下浸水131棟、道路破損43ヶ所となった。

出典：湯沢河川国道事務所、大仙市

▲西仙北地区洪水ハザードマップ 出典：大仙市防災ハザードマップ

ETC2.0データ(R2.9～11月) 平日12時間(7～18時)平均

平成29年豪雨災害時、ボランティアセンターを西仙北地域に開設し、県外および市外から多くのボランティアと物資の援助があった。迅速な復旧支援にも寄与している。

秋田県地域防災計画では、緊急輸送道路ネットワークとして国道13号線、秋田自動車道が指定されており、秋田自動車道における防災拠点となり得る西仙北SA、大仙市地域防災計画で指定する西仙北SIC周辺の避難場所への早期到達が可能となり、災害時の対応力強化につながっている。